注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報　注意報

６０１１－１８１８
平成３０年１２月２５日

各関係機関の長
各病害虫防除員　殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成３０年度病害虫発生予察注意報第４号について

平成３０年度病害虫発生予察注意報第４号を発表したので送付します。

平成３０年度病害虫発生予察注意報第４号

きゅうりべと病の発生が急激に多くなっています。
防除対策の徹底を図りましょう。

１　病害虫名　：　べと病

２　作 物 名　：　冬春きゅうり

３　発生地域　：　県下全域

４　発 生 量　：　多

５　注意報の根拠

１）１２月中旬の巡回調査における発生面積率は53.3％（前年41.2％、平年36.1％）（図１）、発病葉率は24.3％（前年3.5％、平年3.4％）（図２）で、いずれも平年に比べ多い発生であった。
　発生面積率、発病葉率ともに過去１０年同時期で最も高くなっている。

２）向こう１か月の気象予報では、気温は平年に比べ高く、降水量は平年並～多い傾向の予報であり、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台１２月１３日発表１ヶ月予報）。

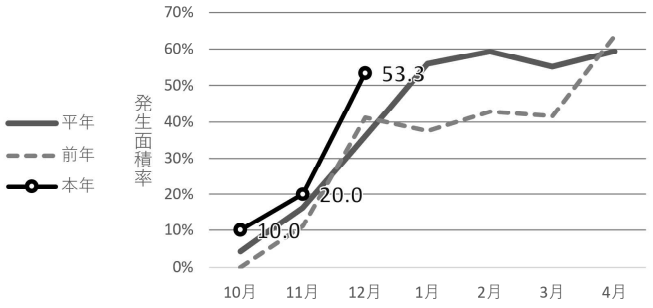

図１　発生面積率の推移

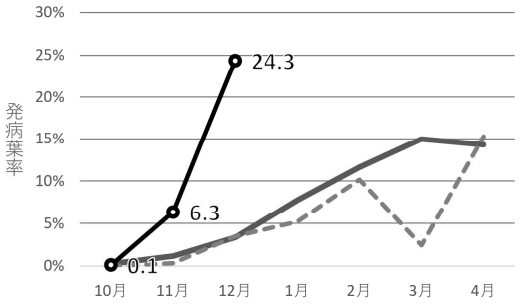

図２　発病葉率の推移

6　防除上の注意

１）気象条件や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、葉に結露が生じないよう換気や温度調節を行い、施設内の管理を徹底する。

２）肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。

３）多発すると防除が困難となるので予防散布に重点をおき、発生が見られたら初期防除を徹底する。

４）発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、速やかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。

５）多発時はべと病を対象とする専用の農薬を使用し、新葉の展開にあわせて葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。また、多発時の１回散布では、防除効果が現れにくいことがあるので、７日間隔で２回以上の連続防除を実施する。

６）農薬による防除では、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。また複数の農薬で薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布によっても防除効果が認められない場合は使用を見合わせ、他の薬剤による防除に切り替える。

7　その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部､病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
（病害虫防除・肥料検査センター）　森下
TEL：0985-73-6670　FAX：0985-73-2127
E-mail：byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp